

## 小学校 1 年生の生活 小学校入学期

# 夢と希望 そして 少しの不安

### 1 小学校1年生によく見られる姿

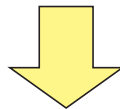
- ・ 元気がいっぱい、学校生活への期待にあふれている子どもが多い。
- ・ ものおじせず、伸び伸びとして、自分の考えを積極的に伝えようとする子どもが多い。
- ・ 上級生に対して親しみの感情をもって関わる子どもが多い。
- ・ 読み書きに関する知識や関心が高く、文字を書いたり読んだりすることに積極的に取り組む子どもが多い。
- ・ 給食を学校での新しい活動の一つとしてとらえている子どもが多い。

#### 【子どもたちが戸惑いを感じていること】

- ・ 1つの小学校に様々な幼稚園・保育園・こども園から入学してくるため、新しい大勢の友達との出会いがあること。
- ・ 天井の高さや広くて長い廊下、大きな体育館、トイレなどの施設の大きさや形が、幼稚園・保育園・こども園と大きく異なること。
- ・ 体の大きな上級生や大勢の児童、たくさんの先生たちとの出会いがあること。
- ・ 担任の先生の関わり方が幼稚園・保育園・こども園の頃とは少し異なること。
- ・ 集団行動の仕方や道具の片付け方、始末の方法など初めてのことで、またはこれまでと異なること。
- ・ 幼稚園・保育園・こども園での最年長としての立場から、学校で最年少の立場となったこと。

#### 【不安な気持ちや高揚する気持ちの表れ】

- ・ 先生の話をしっかり聞き、内容を理解して行動することが時々できなくなる。
- ・ 授業の内容に興味をもち、落ち着いて授業を受けることが難しい。
- ・ 生活のリズムが整わず、遅刻したり忘れ物をしたりしてしまう。



一人一人の児童の小学校生活への期待や不安を受け止めながら、安心して授業を受けられるように支援することが、一人一人の安定につながり、小学校での学びの第一歩となる基盤をつくっていきます。

## 2 小学校入学期の教育の重点

- 「学校は楽しい」と感じ、喜んで登校できるようにする。
- 学校の施設に慣れたり、時間割に沿って活動する生活の仕方を知ったりして、安心して生活できるようにする。
- 先生や友達の話聞く、自分が思ったことや考えたことを話す、教科書を読む、文字を書いたり消したりする、勉強に必要な道具を出したり片付けたりするなど基本的な学びへの態度や意欲を育む。
- 学級の友達と一緒に給食の準備や後片付けをして、楽しんで給食が食べられるようにする。

### ☆ 生活面

- ・ 幼児教育で培われた力を十分に発揮できるよう一人一人の児童の状況を丁寧に受け止め、安心感がもてるようにする。同時に新たな気持ちで小学校生活をスタートをできるように、一つ一つ確認しながら身に付けられるようにする。
- ・ 1週目は、「学校は楽しいところ」と感じられるように、学校探検をしたり、ゲーム感覚で友達の名前を覚えたり、好きな絵を描いたりするなどを計画する。
- ・ 学校全体での協力体制や家庭との連携、さらに、上級生との関わりなどを通して、学校生活に慣れて安心して過ごせるようにする。
- ・ 学校に置いておくものと家に持ち帰るものを区別するなど、自分で道具箱の整理ができるように一人一人の児童の実態を把握しながら援助し、自分でできるようにする。
- ・ 給食は、時間に余裕をもち、楽しく食べるようにすると同時に、一定の時間内で食べる、しっかり噛んで食べるなど食事に関する指導も丁寧にしていく。
- ・ 教室の掃除は上級生に教えてもらいながら覚えて、次第に、自分たちだけでできるようにする。
- ・ 第1回の保護者会では、1年生の目標や学級の経営方針を中心に、1年生の学習、1年生の生活などを丁寧に説明し、家庭と連携して新しいスタートがスムーズに楽しいものとなるようにする。
- ・ 学校ですること、各家庭ですることなどについて子どもの生活を見直し、子どもたちが自分の力で小学校生活を充実したものにしていくよう協力体制を築いていく。

### ☆ 学習面

- ・ はじめは、子どもの集中が維持する時間（20分程度）のモジュールで授業を構成し、トイレに行くなどの休みを入れる。2時間、3時間で下校するなど、徐々に慣れるようにする。
- ・ 2週目からは、教科書を使っての勉強や給食も始まり、1年生を迎える会や健康診断など様々な行事が始まり、集団で行動することが多くなることを踏まえて、子どもたちが見通しをもてるようにする。
- ・ 聞く、話す、線や文字を書く、消しゴムで消すなどの基本的な活動を少しずつ学んでいけるようにする。
- ・ 4週目位から、通常授業として各教科の授業が進められていくが、教室は学び合う場であり、失敗したり間違えたりしながら学んでいくところであることを子どもなりに受け止められるようにし、積極的に授業を受けられるようにする。

### 3 親育ち・子育て支援 保護者へ発信しましょう…子育て支援と家庭の教育力向上に向けて

- ☆ 小学校へわが子を入学させた保護者にとって、小学校での生活の仕方や勉強の進め方など、入学の喜びとともに不安も大きいものです。子どもの不安を解消するには、保護者に安心感をもってもらうことが何よりです。安心して学校に子どもを送り出せるように支援しましょう。
- ☆ 学ぶ意欲にあふれた環境づくりができるよう働きかけていきましょう。
  - ・ 入学時に、保護者会や家庭訪問、授業参観、年間の行事予定などを丁寧に伝え、学校と相互理解を図りながら、子どもにとって安心できる環境を整えることが大切です。
- ☆ 子どもと触れ合う時間を大切に、言葉のやり取りを楽しめるよう助言しましょう。
  - ・ 先生の言うことを集中してしっかり聞こうとする意識や、内容を理解して行動できることが何より大切です。
  - ・ 家庭での楽しい会話が、よい聞き手・よい話し手を育てることを伝えましょう。
- ☆ 遅刻をしないで、気持ちよく1日を始められるよう家庭との協力体制を築いていきましょう。
  - ・ 遅刻をする子ども、朝食を食べていない子ども、眠たそうに登校してくる子どもがいます。1年生に必要な睡眠時間は10時間とされています。一人一人の状況を受け止めながら、夜9時には寝て、朝7時には起きる習慣を身に付けられるよう家庭との協力体制を築いていきましょう。
- ☆ 家庭生活では自分で責任をもってやり遂げることを徐々に増やしていきましょう。
  - ・ 自分でできることが増えることは、小学校生活における自信につながります。
  - ・ できることは自分でさせながらも、子どもの状況をしっかりと受け止め、できないことや困っていることについては一緒に考えたり援助したりすることが必要です。

## 4 実践事例(25)

1年生 4月上旬

〈単元名〉がっこうだいすき(生活科)

〈本時の目標〉生活への関心・意欲・態度

友達の名前や好きなものなどを知らうとする。

活動や体験についての思考・表現

自分の名前や好きなものなどを友達や先生に教えることができる。

自分のことを先生や友達に教えるカードを作しましょう

## 学びの基礎

- ・自分の名前を知らせたいな。
- ・友達の名前を知りたいな。

- ・あの子の名前も知りたいな。
- ・早く聞きたいな。
- ・大きな声で言おう。

- ・聞こえたかな。
- ・先生 見て 見て 書けたよ。
- ・早くお友達に見せたいな。

- ・どんな子がいるのかな。
- ・早く友達になりたいな。
- ・好きな絵を描いていいのかな。



## 学習活動

- ・先生の話聞き、理解して行動する。

- ・クレパスを用意し、自分の好きな色のクレパスを選び名前を書く。

- ・名前の他に好きな絵を描き足す。

- ・言葉で発表する。
- ・友達の話聞く。

- ・絵や文字と結び付けて友達の名前を覚える。

## 👉 教員の指導・支援のポイント

☆ 入学してすぐは、新しい環境に慣れることに精一杯ですが、徐々に先生や隣の友達だけでなくクラスの友達にも目が向いていきます。自己紹介などを通じて交友範囲を広げ、学校を楽しく感じられるようにします。

- ・ 学校生活の第1週目は「学校は楽しいところ」と感じられるように友達の名前を覚えたり、施設の使い方を学んだり、学校の生活を知り、安心して学校生活を送ることができるようにする。
- ・ 自分の名前などを伝え合う機会や場をつくり、友達に親しみがもてるようにする。例えば、その子らしさが表現されるように、クレパスなどで好きな色を選び、自由な雰囲気の中で名前を書いたり好きな果物や花などを楽しく描いたりできるよう工夫する。
- ・ 名前が書けなかったり、絵が描けなかったりして困っている児童には、一緒に文字を書いたり見本を示したりして安心感がもてるようにする。
- ・ 自己紹介の際には、黒板の前に集まるなどして、友達を身近に感じられるようにする。また、必要に応じて自己紹介の例文などを用意して、向かい側の見える位置に貼り、安心して話ができるように配慮する。
- ・ みんなの前で自分の名前などを伝えられることは、学校生活を送る上での自信にもなり、次の行動への意欲ともなる。

## 4 実践事例(26)

1年生 5月上旬

〈単元名〉季節を感じて(春)ぼくのあさがおわたしのあさがお(生活科)

〈本時の目標〉生活への関心・意欲・態度

自分のアサガオを育てることにより、自然に親しみ、成長に関心をもつことができる。

身近な環境や自分についての気付き

アサガオの成長に気付くとともに、自分の成長にも気付くことができる。

## 自分のアサガオを育ててみましょう

## 学びの基礎

- ・自分で種をまいてアサガオを育ててみたい。
- ・しっかりと世話をでききれいな花を咲かせたい。

- ・いつ芽が出てくるのかな。
- ・どんな芽が出るのかな。
- ・毎日、よく見て水やりを忘れなければきっときれいな花が咲くはずだ。

- ・見つけたこと、分かったことを友達に話して伝えよう。

- ・家でも育ててみよう。



## 学習活動

- ・アサガオの成長の変化に気付く。

- ・絵に描いたり文に書いたりする。習った字を使って文を書こうとする。

- ・指導されたことを生かして観察したり表現したりする。

- ・分からないことについて友達や先生に聞こうとする。

- ・見たこと、感じたこと、思ったことを自分なりの方法で表現する。

## 👉 教員の指導・支援のポイント

☆ 入学してほぼ1か月が過ぎ、新しい環境にも少しずつ慣れてくる頃。生活科の授業として、自分の責任で自分のアサガオを育てることを通して、自分が今まで体験してきたことを結び付けたり、自分なりに感じたり、考えたり、伝えたりしながら、友達と学び合い新たな知識、文字や絵による表現の仕方、考える力などを育みます。

- ・アサガオを育てる時に「アサガオの赤ちゃんの、お父さん・お母さんになろう」という動機付けをしたことで、種の一つ一つに名前を付け、自分の家族の温かさを思い出しながら、自分だけの大切なものとして大きく育てたいという願いをもつ姿が見られた。子どもが主体的に活動に取り組むための動機付けが大切な支援となる。
- ・アサガオの発芽や成長を、タイミングよく観察する中で、見たことや感じたことを自分なりの方法で表現する。日常生活の中で、よく目にするところのできる場所で育てたり、児童が発見したことや感動したことに丁寧に応えていったりする教員の支援が大切である。
- ・アサガオの成長を喜んだり友達と共有したりする中で、自分自身の成長にも気付き、自分を育ててくれている家族の愛情に気付くよう、植物の成長と自分の成長を重ねられるよう、児童の気持ちを丁寧に受け止めたり、友達の見聞に気付かせたりするなどの支援が大切である。

## 4 実践事例(27)

1年生 6月下旬

〈単元名〉いくつといくつ(算数)

〈本時の目標〉算数への関心・意欲・態度

10を構成する2つの数の組み合わせを見つけようとしている

数量や図形についての知識・理解

10についての構成を理解している

机の隣の人とペアになり10つくりゲームをしよう

## 学びの基礎

- ・面白そう やってみよう。
- ・そんなの簡単 簡単。
- ・間違えたって大丈夫。

- ・これでいいのかな。
- ・10になる数を考えよう。
- ・ちゃんと10になったかな。

- ・よかった 10になった。
- ・できたね できたね。
- ・いいこと考えた。先生聞いて。

- ・10になる数のことで、新しいことが分かったんだ。
- ・黒板でやってみたい。
- ・ぼくも分かった。一緒にやろう。



## 学習活動

- ・数字のカードを自分で整理したり片付けたりする。

- ・友達が出した数にいくつ足すと10になるか考える。

- ・友達が何を考えているのか受け止める。

- ・いろいろな組み合わせで、10になることを理解する。

- ・自分で考えたことを友達に分かるように説明する。

- ・数の構成の面白さや美しさに気付く。

- ・みんなで協力して考えていく中で、新たな発見や感動を共有する。

## 👉 教員の指導・支援のポイント

☆ 児童の学習態度も落ち着いてきた頃、ある児童の気付きが他の児童の気付きにつながるなど、一緒に活動を進めることが新たな学びの力を育みます。

- ・ 6月下旬になり、児童の学習態度も落ち着いてくる。4月から教員や友達の話をしっかり聞き、理解して行動できるようにするとともに一人一人の思いや発想を大切に受け止めることを心がけてきた。
- ・ 子どもたちと数を確認ながらカードを提示し、実際にゲームをやってみて、やり方を確認し、迷っている子どもには、○の数を数えさせることで理解できるようにする。
- ・ 子どもたちの発想や考えたことを大切にし、子どもたちが発表する段階ではカードは発表順に黒板に並べ、考えたことの価値を子どもに返せるようにする。
- ・ 0から10までの数を対応させてから並べることで10の数ができることが分かるようにする。
- ・ まとめの段階ではカードを整理して並べることにより、視覚的に数を捉えられるようにし、数量感覚を養えるようにする。
- ・ 10はいろいろな組み合わせでできることを子どもたちが理解できたか、練習問題を解きながら確かめられるようにする。

## コラム

## 1 初めての授業こそ連携のスタート

「ここが、私のクラス、この人が私の先生」と教室や担任に強い印象を持ち、「明日はどんな事があるんだろう。楽しみになってきたぞ。」とワクワクさせる初めての授業。

入学式後の自分の教室での初めての授業こそ、幼児教育から学校教育への精神的段差を成長の有効な節目に変える大切な時間です。

## &lt;オルゴール&gt;

「これは先生の宝物。今日は皆さんの入学のお祝いに特別にきかせてあげたくて家からもってきました。」三つのオルゴールを子どもたちのまるまるした沢山の真剣な目が見つめます。微笑みを返ししながら、「ハッピーバースデートゥユー」のオルゴールをならします。

「ワー」ため息にも似た優しい声が教室を満たします。「沢山の1年生が生まれた日。1年生おめでとう」「ありがとうございます」なぜかオルゴールのような優しい小さな声が返ってきました。

二つ目は、「夏の思い出」三つ目は「さんぽ」子どもたちが自然に静かになり、抱きしめたいような優しい顔になりました。

そんな子どもたちに背を向け、今度は三つのオルゴールを一度にならしました。「うるさいよ!」「やめてくれ!」「先生駄目でしょ!」子どもたちは耳をふさいだり、口々に言ったりしました。

オルゴールを止めて子どもたちに一言。「一つ一つはこんなにきれいな音なのに、三つもなるとうるさくていい音がひとつも聴こえなかったでしょ。だからお約束してね。1年1組のみんなは、きれいな音のするオルゴールよ。素敵なお話を一人一人ちゃんとして、お友達のお話は一人一人ちゃんときいてほしいの。今日から素敵な1年生だから、(三つのオルゴールを指して)この素敵なオルゴールのような仲間になるよう、先生は『おるごおる』というお手紙にみんなのことをたくさんかこうとおもいます。皆さんは、お家に届けるゆうびんやさんにもなってください」と、学級便り『おるごおる』の第一号を配りました。

## 2 自分で自分の学びを拓いたよっちゃん

自分で自分の学びを拓いた素敵な1年生の姿です！子どもたちは日々輝きを増していきます。

## &lt;先生明日も来るからね&gt;

よっちゃんは、ひらがなの練習がとても苦手でした。ひらがなの練習が始まるとみんなは、大喜びで元気になるのによっちゃんは元気がなくなります。

5月の始め頃、生活科でウサギと遊んだり、野菜を食べさせたり、抱いてみたりしました。この学習の後、よっちゃんは「『み』ってどう書くの？『ん』ってどう書くの？」と、先生や友達に自分からひらがなを聞き、自分で描いたウサギに初めて自分で『みんな(ウサギの名前)はだいすきです』と、書いたのです。

その日の帰り際、靴箱から取り出した靴を持ったまま、よっちゃんは、先生の所へ駆けていきました。そして、先生の耳に内緒話をするようにささやきました。

「せんせい あしたもくるからね」と。

よっちゃんは、この日、学ぶことの楽しさ、文字を書くことの必要性を強く感じ取ったのでしょう。だから、自分で考えて先生に「明日も勉強教えてね」と伝えたかったのでしょう。それが「先生、明日も来るからね」という言葉になったのだと思います。このことがきっかけとなり、その後、学習や生活面でも意欲的な姿が見られるようになったよっちゃんです。

自分で自分の学びを拓くことによって、子どもたちは日々輝きを増していきます。

何と素敵な1年生ではありませんか！